

# フランス語における右節点繰り上げ構文のシンタクスについて

白石 碧  
(東京大学大学院)

本発表では、フランス語における右節点繰り上げ操作 (Right-Node Raising) の特徴を明らかにし、この操作を音韻的同一性に基づく省略として分析することを提案する。

右節点繰り上げとは、等位接続構造のような平行性を持つ構造に、その構造の右端の要素を統語的、意味的に共有させる操作である。次の (1) は右節点繰り上げ構文の典型例である。等位接続構造において、第一等位項の過去分詞 *épluché* と第二等位項の過去分詞 *mangé* が右端の要素 *les pommes* を共有している。

(1) Marie a épluché et Paul a mangé les pommes. (Abeillé & Mouret 2011)

また、省略分析にとって問題となり得る文を検討し、その解決策を提案する。例えば、(2) の文は下位範疇化のミスマッチをみせる。

(2) Ce parti ne parvient pas, voire ne souhaite pas surmonter, les contradictions idéologiques qui entravent son action et rendent ses choix confus.

(Abeillé & Mouret 2011)

(2) の第一等位項の動詞 *parvenir* は項として前置詞句を、第二等位項の動詞 *surmonter* は名詞句を要求する。共有要素 *les contradictions idéologiques qui entravent son action et rendent ses choix confus* は名詞句であるため、第一等位項に省略された共有要素を復元した文は非文となる。(2) のような文を省略分析でどのように扱うべきか検討する。